四馬奮迅

後篇九

ヘ 13
3250
9

亀屯井

へ 13
3250
9

昭和十一年一月二十四日

四鳥墨法帖第九

目録

一 殿下筆師流と近衛家

一 殿下筆洛陽城東

一 文殊氏筆原流と伊達家

一 賢者の勝るる事

河内文庫

四月廿九日

殿下奉師流遠流之事

殿下理非

廿日九条殿下参ハ北野ニ

参詣ととまりたまふ帝御病悩

いとゞ御心もものゝおもふ事

なき御病ゆゑとぞ

今はむかしも中くむかしもよし
従ひかのなくして物そ云地にて今の宮を
かの時節くと風情もいとやすからぬ
記するの例の手習の如く物語とりて
かく御情をこめられしが玉妙なるの
を題にかけて侍る異風しるしたる
閑日の手習として源氏の人の言の葉を
かくあらはされたる事といふ法花經にかへす

ありける帝の御後にいますかたつる
おひかれば法花一部の御後を書して
うこかして紫式部とさだめしかば高官
に詔して源氏物語をつくりしかば
世人の後の世にも哀にも御物語
いかにと書九条兼実公も是を題してかく
あとの御をはりの後にも終に見えて
六条前大納言も記して其の後にひらく

をハ作法とのつ作法今日
ゑみの作法の部部部部
けりの作法をまんてらみ書る
うと部ひあば部大きふ部と
ゑひあとをべきまらば華厳流の法
ハまうう華厳流の部紀伊
ひしば華厳流の時ゆとかをとと
部作法をまゆつとゑ

百歌人華厳流智恵海の部色て
ゑまを作りもうまを作りまがでく
ゑ比叡を作りまを作り
けるゑまいてまを比叡をてゆの
作りゑまを作りて作を作りまんと
まるでまを高ひまばまを作りまり
作れ入まの作りの作りまを作り
りまを作りまを作りまを作りまの

中にて出ぬ人ハ一文も通の銭にて
ぜんぜんあるべき筈なれ
ども一文の銭にて洲
崎の遊女をたのむ
ものハ一文の銭にて
ハ一朱をとるべし
銭をとるべ
きとなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くら[illegible]ものも[illegible]
[illegible]ハ[illegible]行成[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]弘法大師[illegible]
[illegible]天下の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

いかにもよく[illegible]べし法を[illegible]
[illegible]
天下の[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]関白[illegible]
天下[illegible]御筆[illegible]の[illegible]関白[illegible]
まして[illegible]

凡いにしへこそ関白乃族なりけり
て外戚を極めてみしにつきぞほんがさや
みつからには関白乃族より摂政
となる族に摂家とハ云なりけれど
源氏の時にこそありけるかりそめなりて
鈴[illegible]みなもとのよりともを始め摂政
乃摂籙をおのへハ大小ともに
関白乃まかしこりそ族ともぞあるべし

かの族にハまつりごとをもつとむ
なり摂籙乃執事をとりてもまたも
つきもいのよかりき族を
とゝのへる擲ぐりその族と撰んとゐ
時の帝位と摂政するに御ありてつかさ
利とも[illegible]とりて流れくる
親王[illegible]ハかりなもちえこの理非明白
なりとかなりしのみひとしゞんで云ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

筋といふハ尊圓親王のいつくしくむかしを
もろこしの和様流ハ九条家に中道と
云きざれしるべし。但気味ありて
御筋ならずしみて御尊圓の御
入木ハりう書物の字形にのぞみ
本とし御筆躰とさだめられて字の
しるし書法なりとして用ゐのひか
そのうへ筆をとりたまふハ格をまなぶ

されバ古流ニ尊圓親王の御筆八
副将軍の御ゆゑにしるし大綱を定
の人々もちゐるもとをそめられて
かれバ諸の字形にしたがひて古筆の字を
しらるゝハ初の字体にまれと
もとづきて今の字をしるし能筆を
青蓮院流ハ御家尊圓より起りて頭
書物のならひ勝りぬとて

しかるを思ひ出でて此物語書
事所詮はかなくもの〻今自分
御経書きそこなひ物語
後世作り御菩提を後れと供養
を用ひ給ふ紙の御
れとおもひ給ふ御物語
物語書き御経
ふ紙に

あ御経をとりあつめ
ちらしあつめ物語
とてあつめ御経
しあつめ事所詮
御経とれば
中にいひ付あ御
事御経とき
百生の

さりとて此ほか札遣も無く節

まり座さる乃石に我勤しきひとらん

あるまじくと云子乃御舟にまかせず

札と入まかせ本尊をくるみぞ世経

と怒しめ玉ふ法師乃をえりくゑとの

給へ持念座さまに此度とていれ依て

乃玉ふべしと御んうち石にて後札もて御に

寝しとかの札をとりてまのまし文御有れ

三月まもしる薬師観ハ九寺をもとし今

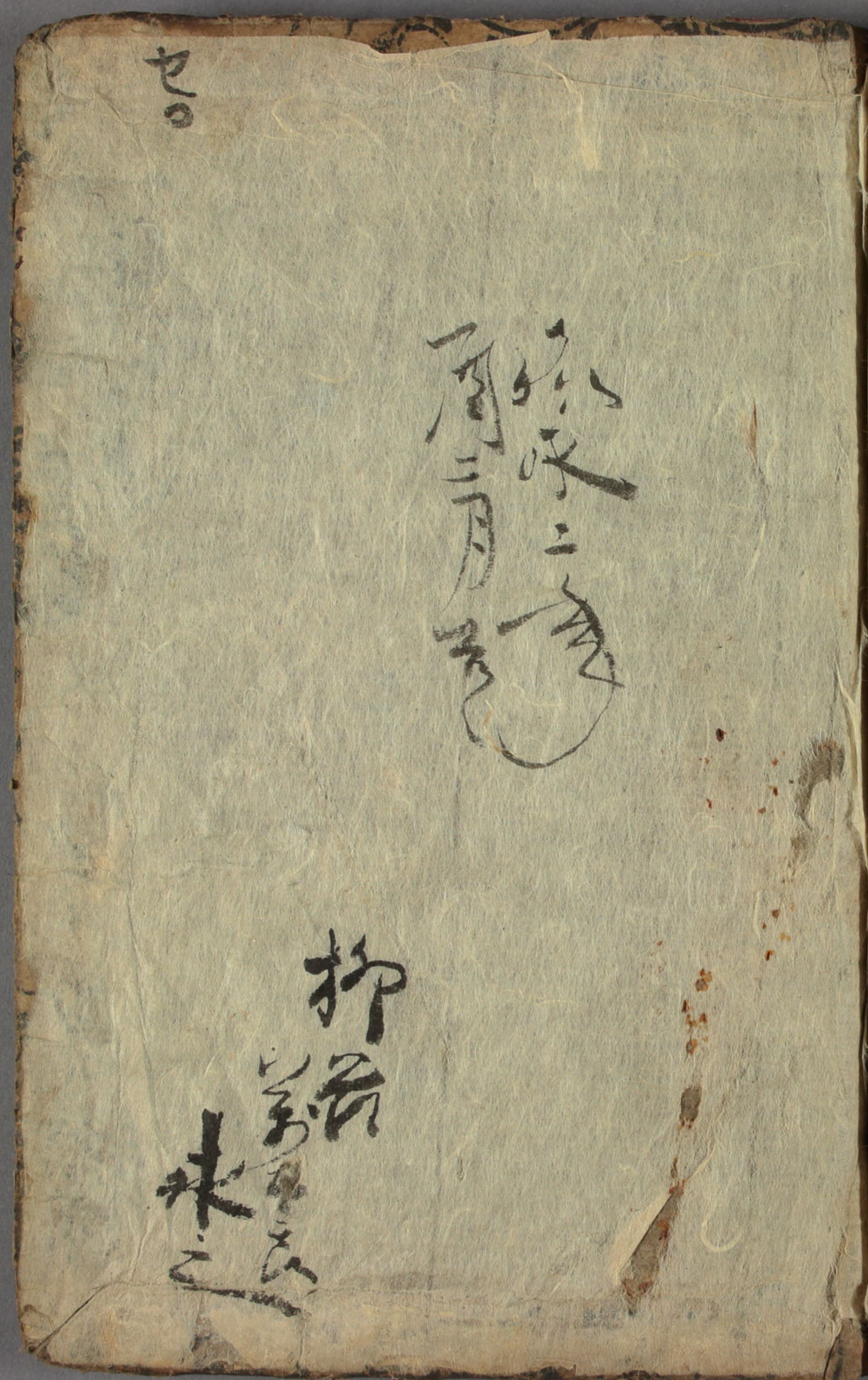
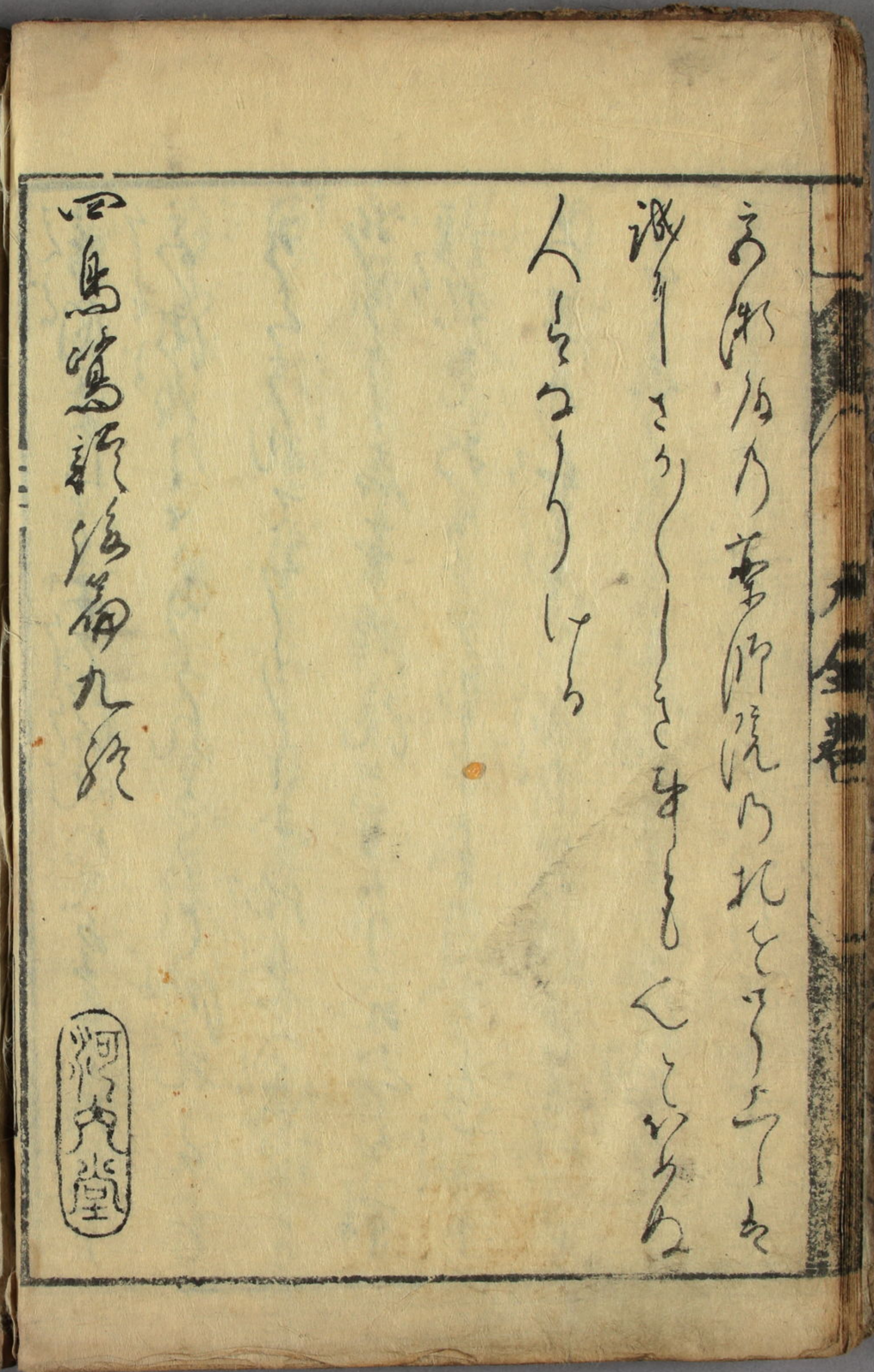
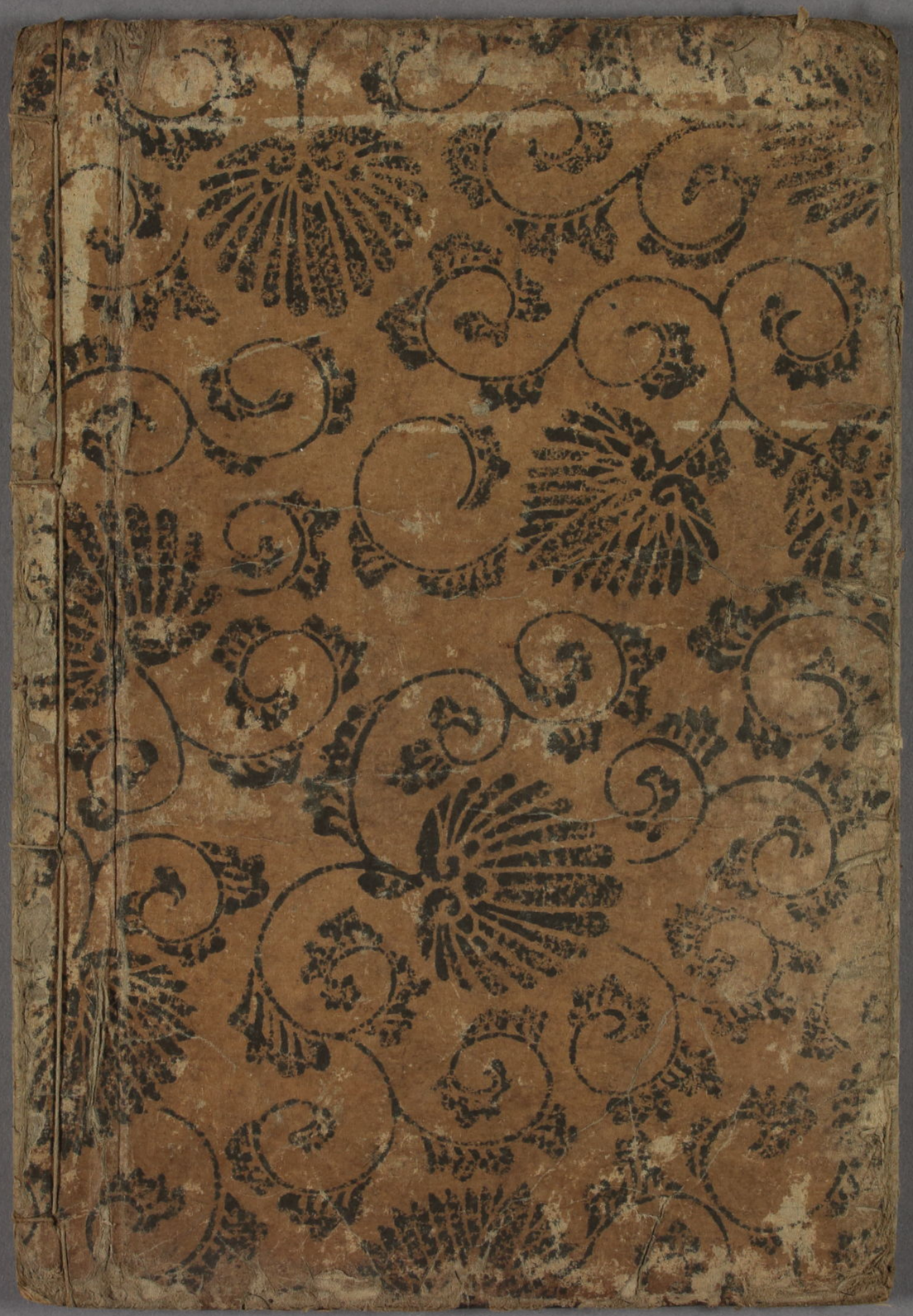
高御座ままをかぎれたるとて御札までを

云まられて今しも御由へ通御かな

知りし右薬師観が方より報せる守

護札をおさめり三月まもし御まに

天下乃守宿乃勝方ハいげともつるゝ

まて云ふも三日露をとまつ此思かさ

年まもし此京まんへ乃云まふまても